

1. FUJI 2. TAKA 3. CHALLENGE



たかおか

発行：まちづくり協議会 編集：まちづくり新聞編集委員会 連絡先：まちづくりセンター (TEL71-3215)

まちづくりセンターへの指定管理者制度の導入

須津、松野地区が令和4年4月スタート

鷹岡まちづくり協議会(遠藤晃会長)は、8月2日に鷹岡まちづくりセンターで、恒例事業となっている、まちづくり講演会をコロナウィルス感染拡大防止に最大の注意をはらい、出席者を限定して開きました。今年度のテーマは「まちづくりセンター指定管理者制度について」で、富士市市民部まちづくり課の笠井洋一郎課長を講師に招き、制度の内容について説明を受けました。すでに、本紙『たかおか』では指定管理者制度について過去2回、特集記事を掲載しています。また、まちづくり協議会は令和5年2月に開催予定の「まちづくり講演会」で、令和4年度から指定管理者制度を導入している地区に講師役の派遣を依頼して開くことになっています。以下に、地区民にとって重要な案件であるまちづくりセンターの指定管理者制度導入についてQ&A方式でお知らせします。

■現在の富士市のまちづくりセンターは…

平成20年度から「公民館」から現在名の「まちづくりセンター」に切り替わり、諸証明発行の市民サービスコーナーも開設するなどミニ市役所+社会教育施設+まちづくり協議会の支援の位置付けにあります。

■指定管理者制度とは…

少子化によって日本の人口が減少に転じ、生産労働人口が減少、その一方で高齢社会の進展によって社会保障費の増大が確実となった平成15年(2003年)の地方自治法の一部改正で登場した。多様化する地区課題を効果的、効率的に対応するために、民間の能力を活用しつつ、住民サービス向上を図り、経費の節減を図ることを目的に創設されました。

以後、全国的に公共施設の運営・管理への指定管理者制度導入が進み、富士市でも外郭団体だった経過を踏まえての「公募なし」でロゼシアター、交流プラザ、体育施設、都市公園などに導入。また、競争原理を導入した「公募あり」でふじさんめっせ(産業展示場)、市民活動センター、丸火少年自然の家などに導入されています。

■なぜ、まちづくりセンターに導入…?

市は公募ではなく、「各地区のまちづくり協議会を指定管理者に指名し、センターの運営・管理を行い、まちづくり協議会の自由な発想によって資金を得ることも可能とすることで持続的な地区発展の手段とする」と述べています。

導入には、現行の市直営に比べ人件費一つとっても公費削減に結び付く、その狙いがあることは言うまでもありません。

■今後の展開は…?

松野と須津の2地区で令和4年(2022年)4月1日に指定管理者制度がスタート。これをモデルケースとしての今後の市のスケジュールは、令和5年6月に地区代表者への説明会開催、同年9月から導入希望地区における個別説明会開催、同年12月に第2期指定管理者候補地区決定及び協定締結に向けての協議、令和6年11月定例市議会にまちづくりセンター条例改正案上程、同年12月条例改正案可決、令和7年4月に第2期指定管理者制度スタート。これ以降も市は毎年、導入希望地区を募集する予定ですが、避けては通れない地区課題なだけに、第2期募集では、かなりの導入希望が予想されています。



講演する笠井課長

鷹岡の願いを市政へ

■行政懇談会で市民プラザの存続と利活用など、市長に求める■

恒例の富士市長と地区との直接対話の場である「令和4年度鷹岡地区行政懇談会」が10月17日夜、まちづくりセンターで開かれました。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から参加者を制限、主催の鷹岡地区まちづくり協議会(遠藤晃会長)を構成する区長会や生涯学習推進会など各種団体の役員等に絞り、50人余が出席しました。開催にあたりまちづくり協議会では構成団体から提出された要望を精査し、緊急度や重要性を踏まえ5項目の要望にまとめて提示し、回答を得ました。

提示、回答を得た5項目は次の通りです。

- (1) 社会福祉センター鷹岡市民プラザの存続と利活用について
- (2) 西富士道路の鷹岡地区へのインターチェンジ設置について
- (3) 高齢者公共交通支援事業について
- (4) 道路照明灯設置について
- (5) 交通ルールの徹底について

5項目のうち(1)は質疑を交えての直接回答とし、(2)から(5)の4項目は行政懇談会の時間的制約により文書で回答を受けました。

直接回答の(1)鷹岡市民プラザの存続と利活用については、富士市が本年4月、富士市社会福祉センター事業審議会からの社会福祉センターの存廃等にかかる答申を受けての見直し案を公表。「市内7か所の社会福祉センターの内、鷹岡市民プラザは建物の老朽化具合や周辺類似施設の状態を踏まえると、当面の間、施設は継続し運営することが妥当であるが、大規模改修に多額の改修費用が発生する場合や耐用年数を迎えた際には原則施設は廃止に…」との方針が示されました。

要望では、「鷹岡市民プラザは社会福祉センターの機能のみならず、多目的ホールや会議室、和室、屋外にはプールも備えた多目的施設で、地域図書館の富士文庫も併設された複合施設であること、誕生は平成2年(1990年)4月で、すでに築32年を経過しているが、鷹岡地区のみならず市内北西ブロックにおける貴重な施設でもあることから、やがて求められる大規模改修に対応し施設の延命化を地区として強く願っている」と訴え、当局に回答を求めました。

当局は、「当面の間、鷹岡市民プラザの運営を継続する方針であるが、高齢者の余暇活動の多様化や行動範囲の広域化などにより施設利用者の減少と新規利用者が増えていないことから、行政が継続してサービス提供を行う必要性は低く、施設の事業形態の見直しの時期を迎えている。今後、大規模改修が必要となった

場合や、令和37年(2055年)に耐用年数を迎え、施設の建て替えが必要となった際には、原則廃止とする答申ではあるものの、富士文庫が併設された複合施設でもあることから施設の利用状況



小長井市長を招いての行政懇談会

や社会情勢等を踏まえ、鷹岡地区の皆様と十分な協議を行った上で判断していく」との回答がありました。

これを受け、出席した区長から「これから益々長寿社会となる中、医療費負担や介護保険料等の増額など経済的に苦しい高齢者が増えることが予想され、多くの方が憩える社会福祉センターを廃止していくことはどうかと思う。いつでも、誰でも利用でき、健康の維持増進に寄与できる施設の存続について考慮を願いたい」、また、PTA関係者からは「市民プールは距離的に遠く、利用するには親の負担も大きい。子ども達の夏の楽しみである市民プラザのプールは今後どのようにしていくお考えなのか」などの意見が出されました。

一方、文書回答の4項目中、(2)の西富士道路の鷹岡地区へのインターチェンジ設置については、懸案事項としてこれまでの経過を踏まえての継続要望で、当局から「令和2、3年度に新インターチェンジ設置の可能性調査を実施し、費用対効果や企業ニーズについて確認・把握。事業化に向けた可能性の検証や新インターチェンジの設置が地域経済にもたらす効果や生活環境の向上などについて、国・県・富士宮市・富士市で共有したところであり、西富士道路の管理者が国土交通省であることから国の直轄事業として取り組んでいただけるよう要望活動を実施している」、さらに「本年8月、富士商工会議所と共に静岡県道事務所に出向き、設置について早期実現を願っていただくよう要望。今後も中部地方整備局、国土交通省本省、財務省、地元選出の国会議員等にも要望活動を行う予定」との回答がありました。

先の富士市議会9月定例会で小長井市長は、早期実現を求めた議員の一般質問に対し、事業主体の国に向け新インターチェンジの設置を令和ひと桁台にすることを要望していく考えを述べながら、「2027年までに…」の目標年も示し、候補地としては「富士市としては県道一色久沢線との交差箇所付近が最適」と答弁しています。

このほかの文書回答とした要望3項目と、その回答は、まちづくりセンターで閲覧できます。



これから、防災にとって大事なポイントを1つずつ紹介していきます。
ぜひ毎回保存していただき、防災知識の習得にお役立てください。

非常用備蓄品、水・食料だけで大丈夫？の巻



簡易トイレ

災害から復旧するまでの数日間のために
7日以上の水、食料、**トイレ**を
備蓄しましょうー！！



大規模地震の場合、自宅が無事でも水洗トイレが使えなくなります！

- 簡易トイレは、4人家族の場合、1人1日約5回×4人分×7日以上となり、約140個以上必要です。
- その他、災害時にすばやく避難できるように非常用持ち出し品をリュックサックなどに入れて準備をしましょう。非常用持ち出し品としては、懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池、ライター・マッチ、非常食・水、医薬品、衣類、貴重品、筆記用具、ビニール袋、ヘルメット、予備のめがね、歯みがきセットなどが挙げられます。

鷹岡地区まちづくり協議会防災部会

ボランティアのみなさん！ いつもありがとうございます！

5年生・6年生 ミシンのサポート

5年生 防災学習

1年生 富士西公園 秋見つけ

3年生 地域防災学習

全学年 遠足

4年生 自転車教室

1年生 校外学習 こどもの国

3年生 市庁舎見学

たんぼぼ バランスボール教室

1年生 下校見守り

4年生 社会科見学

2年生 さつまいも収穫

CS ディレクター
小山です♪

3年生 交通安全講話

1年生 あさがおの種まき

先日、鷹岡小学校の畑でボランティアさんが見つけたさつまいもの花！朝顔を小さくしたような薄いピンク色の花は、条件が揃わないと咲かない、とても珍しい花です！花言葉は『幸運』！見られた方はまさに幸運ですね♪

シリーズ 直撃インタビュー VOL.29

シリーズ第 29 弾の今回は、今春、商工業の振興機関である富士市商工会の事務局長に就任された高柳浩正さんに登場を願い、就任所感や、これからの抱負などを Q & A 方式でお聞きしました。

富士市商工会 事務局長

ひろまさ 高柳浩正さん

Q…まず、着任されての感想、抱負は？

A…初めてのことや、慣れないこともあり、さらに覚えることも多く、少し戸惑うこともあります。内容が濃い日々を送っております。また、商工会の会長をはじめ、役員さんや事務職員に支えられて感謝しております。

富士市商工会の事務所は、旧鷹岡町役場の跡地にあります。商工会は、商工業事業者のための公共的な支援機関であり、今後も、地域の振興を考え、地域の皆さんに愛されるよう努めていきたいと思っております。

Q…地区の印象は？

A…私自身、生まれも育ちも天間です。子供の頃は、天間小学校が開校（昭和 54 年）される前ですから JR 身延線（当時は国鉄）の富士根駅から電車に乗り、入山瀬駅で降りて鷹岡小学校に通いました。また、鷹岡中学校へは、30 分ほど掛けて歩いて通いました。

地区の印象ですが、天間が鷹岡から分離独立する前までは鷹岡地区の住民でもあったので、自分の中では、意識的に地域への違和感は全くありません。同級生も多くいることから“地元だ”と思っています。

Q…皆さんへお伝えしたいことは？

A…富士市商工会は、平成 20 年 11 月 1 日に富士市と富士川町が行政合併したことにより、平成 22 年 4 月 1 日に鷹岡商工会並びに富士川町商工会も合併、富士市商工会として新たなスタートを切り、今年で 13 年目を迎えました。

この商工会組織は、地域事業者が会員となり、ビジネスやまちづくりのために活動を行う総合経済団体です。そんな中、商工会の 2 大事業は、事業者の経営改善（経営改善普及事業）と地域社会の発展（地域振興事業）となっております。

本商工会は、地域の「総合経済団体」として、また中小企業の「支援団体」として経済活動を通じた元気な地域づくりと商工業振興のため、意見活動、まちづくり、社会一般の福祉の増進など、さまざまな事業に取り組んでまいります。

Q…そのほかに関心を持っていることが、あれば…

A…時々、昼休みに、商工会の近辺を散歩しています。旧道のある鷹岡本町や、入山瀬駅付近、たまには、龍巖橋を渡って、潤井川の土手も歩くこともあります。

今の鷹岡地区の街並みと、自分が子供の頃とを知らず知らずのうちに比べてしまいます。

その都度、色々なことが思い出されます。「この辺には、同級生の家があったな。ここは空き家になっているな。この道路の幅はこのくらいだったのか。ここには小川があったはずだ。ここの公園の木は大きくなったなあ〜」等々です。

現在の日本は、少子高齢社会が進展しており、富士市も同様な状態となってきています。

事業の発展には、よく「人・もの・金」が必要だといわれます。コロナ終息後の社会は、いったいどのようにして展開していくのでしょうか。興味が尽きないところです。

今後も、鷹岡地区が「心豊かに、幸せを感じられる」町になるように、少しずつでも発展してゆくことが出来たらよいなと思っています。

Q…最後に自己紹介をお願いします。

A…鷹岡地区の皆さん、こんにちは、お世話になります。私は、この 3 月末まで富士市役所に勤務しておりましたが、定年退職の後、本年 4 月から富士市商工会の事務局長として着任いたしました。市役所生活 38 年の内、色々な部署にも配属されましたが、教育関係が 20 年と長く、教育行政や社会教育の仕事に携ってまいりました。また、教育プラザ開設時の勤務経験もさせていただきました。

家族は、子供 2 人（長女と長男）が独立したため、現在、妻との 2 人暮らし、天間地区に住んでおります。

インフォメーション

※ 各神社の初詣&とんとん焼きについて ※

毎年、年末のまちづくり新聞『たかおか』には、鷹岡地区内の各神社の「初詣」と新春行事の各区の「とんとん焼き」の情報を掲載していますが、新型コロナウイルス感染症が続く中、開催や内容の決定が遅れています。この 48 号の発行日は 12 月 5 日のため、締め切りの関係で掲載が間に合わず、区長会などを通して各区単位での回覧方式などによる情報発信をお願いしてあります。ご了承下さい。

それぞれの立場で社会づくりに貢献

【富士市表彰式】

富士市は市制施行記念日の11月1日、「市長表彰」「地域社会貢献者褒章」「教育文化スポーツ奨励賞」の3つの表彰制度からなる「令和4年度表彰式典」をロゼシアターで挙行了しました。

「市長表彰」は4氏、「地域社会貢献者褒章」は9氏、「教育文化スポーツ奨励賞」は1氏3団体が榮譽を担い、鷹岡・天間地区関係では、「市長表彰」で長年にわたり理容業界の発展に貢献し、富士市技能団体連絡協議の要職も担ってきた荻澤章男さん（鷹岡地区）と、消防団長の要職を担い、市民の安全及び防災に貢献している渡邊明夫さん（天間地区）の2人、「地域社会貢献者褒章」で生涯学習推進会の要職を担い、生涯学習活動に確かな功績を築いている加藤崧さん（天間地区）が榮譽を担いました。

【静岡県知事表彰式】

県は文化の日の11月3日、地方自治、教育・文化、社会福祉など各分野で県勢の進展に尽力した40人・10団体の活動を称える「令和4年度知事表彰式」を県庁で挙行了しました。鷹岡・天間地区関係では、富士警察署の少年警察ボランティア連絡協議会会長として非行・犯罪の未然防止に貢献している稲葉邦文さん（鷹岡地区）が榮譽を担いました。



TOWN NEWS

町の話

新型コロナウイルスの感染が続くものの、ワクチン接種が進んだこともあって感染対策の徹底や規模縮小などを踏まえながら社会が動き出しています。

【まちづくりセンタークリーンアップ】

9月25日、鷹岡まちづくりセンターの植木の剪定作業と雑草の除去作業が行われました。

2年前から年末に利用者団体総出によるセンター内の大掃除に加え、2、3カ月に1回のペースで利用者団体が交代で外回りの清掃に取り組み、この日はまちづくり協議会の事務局員10人が出動、センター職員も加わり、3時間余、「いい汗」を流しました。



【鷹岡まつり開催、大神輿と鬼太鼓座がコラボ】

鷹岡地区在住者を中心とした神輿集団の富士鷹勇會を基軸に組織された実行委員会による「鷹岡まつり」が10月9日、JR身延線入山瀬駅北側の中央自動車学校訓



練コースを会場に開かれました。

感染状況を踏まえ、夏から秋に移行しての開催で、舞台部門も設けられ、露店が軒を連ね、大盛況でした。

夕刻から雨が降り出したものの、「雨が降ろうが、風が吹こうが…」(実行委)という意気込みをもったの取り組みで、夜に繰り広げられたフィナーレの大神輿と鬼太鼓座のコラボレーション時にはパワー炸裂、大きな盛り上がりを見せました。

【地区文化祭再開、ただし展示だけ】

コロナ禍で2年間の中断を余儀なくされていた鷹岡地区生涯学習推進会主催の「地区文化祭」が10月16日、3年ぶりに復活。ただし、接触不安のある舞台部門は見送り、展示部門だけ。期間も、まちづくりセンターを会場に1日間だけの開催となりました。

そんな中でも担当の成人教育部の熱意が実る形で、鷹岡地区の芸術家600人余から2000点を超える作品が寄せられ、多くの来場者で賑わいました。

三角くじによる抽選会も組み込まれ、景品は、「もらってうれしい！」新米やトイレトーパー、ハンドソープなどでした。



【編集後記】 まちづくり新聞48号ができあがりました。今号から、まちづくり協議会と連携しながら『鷹岡地区防災かわら版(保存版)』と題し、防災にとって大事なポイントを順次、紹介していきます。いつ起きるかわからない大規模災害に備え、ぜひ、ご活用ください。お役に立てることを願っています。(K.T)